

三田市教育振興基本計画検討委員会（第2回） 会議録

日 時	令和3年3月10日（水） 午後7時から午後8時55分
開 催 場 所	三田市役所南分館6階601会議室
出 席 委 員	佐藤 真委員長、中間 玲子副委員長、仲矢 史雄委員、尾上 尚司委員、 大東 真弓委員、藪田 昌夫委員、下中 邦昭委員、橋本 真由美委員、 松本 衣里香委員、岸本 高太郎委員
欠 席 委 員	—
学 校 関 係 者	谷本 正弘、岡崎 正文、吉田 裕彦、廣瀬 みちか
事務局出席者	（教育長）鹿嶽 昌功 （学校教育部長）松下 修 （地域創生部市民協働室長）印藤 昭一 （子ども・未来部子ども未来室長）仲井 浩一 （子ども・未来部子育て応援室長）脇田 実夫 （学校教育部次長）外岡 明文 （教育総務課長）浅野 晋司 （教育総務課担当課長）上野 樹 （学校教育課長）山本 直也 （教育支援課長）山口 貴久 （教育研修所長）村岡 智行 （学校給食課長）廣瀬 敏彦 （学校教育課主幹）荒木 裕樹 （教育総務課主任）鈴木 さやか （教育総務課指導主事）松田 成行
議 題	1 開会 2 教育長あいさつ 3 議事 （1）前回（第1回）会議録について 【資料1】 （2）三田市の教育に関するアンケート調査 調査結果報告書について 【資料2】 （3）第3期計画の骨子案について ① 基本理念とめざす子ども像 【資料3-1】 ② 第2期基本計画の振り返り 【資料3-2】 ③ 基本目標 【資料3-3】 ④ 計画の体系 【資料3-4】 4 次回予定 5 閉会
傍 聴 人	3名

会議の概要

事務局(司会)	1 開会 予定の時刻となりましたので、只今から第2回三田市教育振興基本計画検討委員会を開会させていただきます。皆様におかれましては大変お忙しい中、ご参加いただき、ありがとうございます。 会議の成立について報告 会議の公開について説明、傍聴人について報告
事務局(司会)	2 委員長あいさつ 会議に先立ち、委員長よりあいさつを申し上げます。
委員長	委員長：(あいさつ)
事務局(司会)	ありがとうございます。
	3 議事 (1) 前回(第1回)会議録について (2) 三田市の教育に関するアンケート調査 調査結果報告書について (3) 第3期計画の骨子案について ① 基本理念とめざす子ども像 ② 第2期基本計画の振り返り ③ 基本目標 ④ 計画の体系
事務局(司会)	(資料確認) これより、会議の進行は委員長にお願いいたします。
委員長	議事の前に、前回ご欠席でした、けやき台中学校の谷本正弘校長先生から、一言お願いいたします。
谷本校長	けやき台中学校の谷本です。今まで経験したことの無い困難な1年となりました。生徒たちは愚痴を言うことなく、前を向いてがんばっています。また保護者や地域の皆様も支えていただき、感謝しています。 私もコロナ禍で情報発信、学校支援ボランティアの導入と活用に力を入れ、信頼される学校づくりに努めてきました。 コロナ禍で学校行事を行うことが大変でしたが、その中で教職員や生徒たちによくやってきた言葉が2つあります。 まず一つ目は、「できない理由を考えるのではなく、できる方法を考える。」もう一つは「仲間と知恵を出し合う。」ということです。 こうすることで、学校行事を縮小しましたが、充実感・達成感のある学校行事を

委員長	<p>生み出すことができました。</p> <p>私は、夢や希望を持ち、目標に向かってたくましく、そしてしなやかに生きていくことができる子どもを育成したいと考えています。</p> <p>たくましさに加え、しなやかさが大切だと考えています。このような子どもを育てるためには、自尊感情を大切にしていきたいと思います。</p> <p>最後に、中学校では新学習指導要領が本格的にスタートします。また GIGA スクール構想も進み、本校も一人1台のタブレット端末を配布しました。</p> <p>教職員も社会の変化に対応するべく、授業の改善、働き方改革をしなければなりません。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>では次第に沿って進めます。</p>
委員長	<p>(1) 前回 (第1回) 会議録について</p> <p>(1) 前回 (第1回) 会議録について、資料1として、第1回検討委員会の会議録が、委員の皆様のお手元に届いていると思いますが、内容について、よろしいでしょうか。</p> <p>では、議事(1) 前回会議録については、ご承認ということにいたします。</p>
委員長	<p>(2) 三田市の教育に関するアンケート調査 調査結果報告書について</p> <p>(2) 「三田市の教育に関するアンケート調査の調査結果報告書について」に進みます。前回の委員会では、アンケート結果の速報として、事務局よりご説明をいただきました。今回は、アンケートの記述の結果を入れた最終の報告をお願いいたします。結果報告を事務局よりお聞きして、計画案の議論につなげていきたいと考えますので、よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>(資料2に沿って説明)</p>
委員長	<p>ありがとうございました。このアンケート結果や各資料を参照しながら、各委員で計画案を検討していただくこととなりますが、アンケート結果をみていただく時間を取りたいと思います。</p> <p>51 ページの下から2行目は(3)から(4)になるということですが、その部分がよく聞き取れなかったというご意見がありますので、再度、ご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>恐れ入ります。下から2行目ではなく、下から1行目の「学校選択制について」述べている(3)のところ、裏面の52ページの10(2)「学校選択制について」ということで、1件の意見が「その他の学校選択制について」というところに移動</p>

<p>委員長</p>	<p>しています。この学校選択制については、2の最後の「学校選択制について」という項目に加えて、4件にしたいということです。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>では、時間を取りますので、お読みください。</p> <p>それでは始めに質疑ということで、ご質問をいただきたいと思います。ご質問がある方は挙手をお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>現在の三田市のALTの先生の数と、出身国がおわかりになれば教えてください。グローバル化教育の部分です。</p>
<p>事務局</p>	<p>三田市内ではALTとして6名の方が勤務しておられます。直接雇用している方は4名で、JET-ALTとして、国に申し込んで配置していただいている方が2名です。出身につきましては、オーストラリアが1名、イギリスが1名、残りの4名はアメリカです。</p>
<p>委員長</p>	<p>よろしいですか。</p> <p>他にご意見等はございませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>この自由意見のまとめですが、例えば「学校再編についての反対意見」の中に、「少人数教育について」とありますが、このまとめ方だと、意見が何件あったかはわかっても、書いてくださった方の思いや意見の内容が伝わりにくいと思います。自由意見は、思いを伝えたいために記入するものですので、特に学校再編に関しては、もう少し具体的にどのような意見があったのかを教えてくださいたいです。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご意見を紹介します。「学校再編について」の反対意見は16件ということですが、「計画の見直しについて」の3件は、「幼稚園を含めた小中学校の統廃合について、もっと市民の意見を聞いてほしい。まず統合ありきで話を進めないで、一緒に考えてほしい」「人数が少ないから合併統合ではなく、まず地域の意見を聞いて、そこで何ができるかを一緒に考えましょう」「コロナ禍のような大きな変化があった場合、以前の計画をもう一度見直し、再計画をするようにしていただきたい」というご意見でした。</p> <p>「少人数教育について」の自由意見には、「少人数の小学校がよいと思います。小学校数を減らさないでほしいです」「小中学校等、15人のクラスで過ごしましたが、少人数教育はとてもよいものだったと、今思います。どうか再考いただけないでしょうか」「小学校、幼稚園、中学校の再編のことを考えると、クラスの中で埋もれてしまうのではないかと不安になります」「少人数の小学校があってもよいと思います。それぞれの考え方で、そういった少人数のクラスを選ぶことができてもよいと思います」といったご意見がありました。</p>

委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にご意見等はございませんか。</p>
委員	<p>52 ページ3 (4)「学校教育について」のご意見は 22 件で、多く集まっていますが、よいご意見だったのか、悪いご意見だったか、いかがですか。学校再編については、賛成と反対のご意見が分けて示してありますが、ここでは分けてありませんので、どのようなご意見だったのか教えていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>ご意見を紹介します。「英語教育・キャリア教育について」は、「小学校の英語教育については、ネイティブスピーカーを配置するなど、日本語英語ではない、生きた英語を学ばせてほしい」「アントレプレナー教育、キャリア教育の実施を望む」「将来役立つ教育ということで、自分で判断し、自分で行動できるような子どもになれるような教育をしてほしい」「こうみん未来塾のように、好奇心を刺激する機会を学校教育の中で増やしてほしい」「出る杭を伸ばす教育、子どもの得意分野をどんどん伸ばす教育をしてほしい」「今の子どもたちを世界で通用するような大人にするには、自分の意見をみんなの前で言える力が大変大事になってくると思います」「多文化教育ということで、より具体的に踏み込んだ、幼児期からの性教育を行う必要があるのではないのでしょうか」「一個人として理解し合う、お互いを認め合うことの大切さを教えてほしい」「人権教育をもっと充実させて、統一もさせてほしい」というようなご意見がありました。</p>
委員長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>他にご意見等はございませんか。</p>
委員	<p>PTA について、負担軽減や効率化について、9 件のご意見をいただいたことですが、どのようなご意見か教えていただけますか。</p>
事務局	<p>PTA に関しては9 件すべてが負担の軽減、簡素化、効率化を望むご意見でした。具体的には、「期間が長過ぎて大変」「活動に無駄が多いと感じました」「PTA 活動は平日昼間に行われて負担が大きい」「合理化等の提言をしていただけないでしょうか」「ほとんどの人がやりたくないのに、強制的にくじ引きや、在学中に必ず1 回はしなければならぬ。ボランティア制にするとか、やりたい人に集まってもらうなど、何かアイデアがないでしょうか」「共働きに配慮した学校運営、PTA の効率化を行ってほしい」「正社員ではたらいっているのに、PTA の活動まで求められても、正直、厳しい」「活動するか募金を出すか選ぶ等にしてほしい」「仕事を減らすように進めてほしい」といったご意見でした。</p> <p>下の3 件は、廃止すべきだというご意見で、「廃止もしくは委託を望みます」「負担が大きいので廃止してください」というような内容になっています。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p>

<p>委員</p>	<p>他にご意見等はございませんか。 ご質問がなければ、ご感想またはご意見をお願いいたします。</p> <p>「個に応じた学習を提供していく」ということで、実際にデータに基づいて、「こういう特性があるので支援が必要だ」というように、エビデンスに基づくような取組が必要になってくるかと思います。</p> <p>例えば、大阪市にて実績のあるものを実施したり、それを三田市として取り入れたりしていったらよいのではないかというご意見は市民からありませんでしたか。また、そのようなことをする余地が、今のところ、あるのでしょうか。それは、うまく使わないと学校の序列化につながってしまいます。子どもたちを、その層で見分ける形になってしまうという危険があります。個々に対する学習を支援することと、全体のバランスを取ることが大事で、その辺りの情報は何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>アンケート結果の中では、そのような「エビデンスを適正にしてほしい」というようなところまでのご意見はいただいております。</p>
<p>事務局</p>	<p>学力調査に関することとしては、全国学力学習状況調査というものを継続して取り組んでおりました。早い段階から市のホームページでも公開しており、市民の方々にも調査結果等ご覧いただき、ご意見をいただいている状況をつくっていると思います。</p> <p>これに加え、三田市は中学校の英語教育を推進しているということもあり、英検IBA試験を市独自に実施しています。調査を始めて3年になるかと思います。</p> <p>全国学力状況調査は3年に一度ですが、毎年、中学校実施しております。英検何級程度の生徒が何人ぐらいいるのかを調査しているということで、取組を進めさせていただいています。</p> <p>全国学力状況調査については、学力向上推進委員会等を設け、そちらのほうで毎年、検討させていただき、授業改善の方策等も各学校に周知しています。各家庭での学習状況、学習週間の様子等についてもホームページ等で公開させていただいて、各ご家庭での協力を呼びかけています。そのような取組を実施しています。</p>
<p>委員長</p>	<p>三田市の学力向上については、私も関わっておりますが、県でも策定した計画に基づいています。今回は「タイムマネジメント力」という新しい言葉を出しています。これは、コロナ禍で家にいても自分の生活や自分の学習をマネジメントするという意味で、学力を重視し過ぎるのではなく、学習者としての主体性を育てることに重点を置いています。</p> <p>ただ、そのようなGIGAスクール構想が進んで、個別最適化を図っている教育と協働的な学びがある中で、協働的な学びは学校で行い、個別最適化を図っている教育はGIGAスクール構想の中で、1人1台のタブレットで行うということだとすると、指導の個別化と学習の個性化という2つの目標については、指導の個別化は教える側の問題ですのでよいのですが、指導の個別化より学習の個性化は特性をどの</p>

委員	<p>ようにみていくかという問題で、認知行動の問題だと思います。</p> <p>その問題を、今後、考えていかなければいけないということは確かだと思います。今後、ご意見としてうかがい、考えていきたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>おそらく、そのような取組を、三田市がエビデンスに基づいて、きちんと行っていくという姿勢があるにも関わらず、市民の方からご意見として挙がってこないということは、まだ認知されていないということだと思います。</p> <p>子どもたちの特性については、私はある自治体の国語の学力の分析をしています。その中には、回答を全部書いているのに、すべて外れた回答をするような子どもが一定の割合でおります。そのような子どもたちがもっている特性を、先生方がデータに基づいてピックアップしていくことは、現在、データサイエンスが言われている得意な部分だと思いますので、三田市で取り組むことができると、非常によい支援につながると思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。最も先端の話題で、今後、考えていきたい問題だと思います。</p> <p>他にご意見等はございませんか。では、先に進みます。</p> <p>(3) 第3期計画の骨子案について</p> <p>① 基本理念とめざす子ども像</p> <p>② 第2期基本計画の振り返り</p> <p>③ 基本目標</p> <p>④ 計画の体系</p>
委員長	<p>(3)「第3期計画の骨子案について」として、①②③④について、一括して事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>(資料3に沿って説明)</p>
委員長	<p>ありがとうございました。①②③④について、一括して修正意見やご質問等があればお願いいたします。①②③④のどの資料か明示した上で、ご発言ください。</p>
学校関係者	<p>資料3-1の、基本理念「夢を育て、人を育む学びのまち さんだ」はよいと思いますが、視点に関して意見を申し上げます。国の中央教育審議会が1月23日に、「令和の日本型学校教育の構築をめざす」という答申を確定しました。その中で、「新しい時代の教育」ということで、新時代に向けた教育の創造」ということが提唱されています。そのような Society 5.0 の時代が目の前に来ています。Society 5.0 という時代が、日本のいろいろな課題を解決していく、AIやロボット等で夢のある時代がくるというような、ワクワク感をもって取り組んでいただき</p>

	<p>たいと思います。そのようなことが SDGs への取組にもつながってくるのではないのでしょうか。新しい教育の創造を SDGs の部分にも入れていただきたいと思います。</p> <p>視点の順番としては、後の基本目標からみると、SDGs が 1 番上で、2 番目はそのまま、3 番目に「文化・歴史や豊かな自然」となるのではないかと思います。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響で、歴史に残るような時代でしたが、ここには一言もそれに関して述べられていません。この感染症により、命について問い直し、人権についても考えを新たにした部分もありますので、新型コロナウイルス感染症という文言を入れていただきたいと思います。それが、子どもたちにとっての生き抜く力にもつながっていくと思いますので、事実として記載してはいかがでしょうか。</p> <p>基本目標では、SDGs に関する部分が 1 番上にきて、その中に ICT が入ると思います。この視点では、2 番目の「生き抜く力」に ICT が入っています。この辺りの整合性を図る必要があると思います。</p> <p>資料 3-4 の基本施策の一番上の「今日的課題に対応した教育の推進」は、何かもう少し夢のある新時代の学びに対応した教育の推進というようなものを示し、明るい展望や未来を示す形の基本施策にできるとよいと思います。「今日的課題」というよりも、明るく、前向きに取り組める気がします。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。前向きに取り組めるとよいと思います。</p>
委員	<p>資料 3-1 の骨子案に「めざす子ども像」がありますが、私は子どもたちが、生き抜く力がとても大切だと思います。「生きる喜び」ということで、子どもたちや若い人たちが「生きていてよかった」と思ってほしいというところを持っていくことが大切だと思います。そのような意味では、「めざす子ども像」に関連する言葉がたくさん連なっていると思いますが、資料④の計画の体系には表現し切れていないと感じます。</p>
委員長	<p>私からも意見を申し上げます。令和になって、最近、国では「しあわせ」という言葉を使い始めています。「人間としてのしあわせとは何か」「しあわせのための教育とは何か」「教育をして命を縮める、どんどん閉塞感が増すということはどういうことなのか」ということです。教育に関しては、しあわせ感が薄れていくということではなく、増大していかなければいけないのだと思います。</p> <p>表現としては「開放していく」ということが重要で、どんどん閉塞していくということは、時代に逆行するということで、戦時中のようになってしまいます。</p> <p>コロナ禍だからこそ、そのようなことが重要なのではないかと考えます。文化や芸術がなくなる、スポーツも外遊びもできないということは、戦時中とまったく同じだと思います。逆のほうをメインに出していかなければいけないと思います。</p> <p>コロナ禍でも、例えば私は宝塚歌劇を配信でみていますし、出向かなくてもみることが出来る時代がきています。そのように、よかったと思える点もあります。</p>

	<p>資料3-1について、先ほど、事務局と検討したのですが、「ふるさとを愛し、学びのまち さんだを発展させていく」という表現はいかがでしょうか。「学びのまち さんだと共に発展していく」という感じでもよいかと思います。</p> <p>「まちのために」と受け取られないように工夫する必要があると思います。「子どもが主体」「人間が主体」であり、それが集まってまちになっているのであり、まちのために人間がいるのではありません。そのようなことも、うまく表現できるとよいと思います。</p> <p>SDGs については、「そのような子どもたちを育てる」という目標の中で、内容に対する評価というのが PDCA サイクルを指すのだと思います。</p> <p>目標には内容がこなればいけません。内容としては、今回は SDGs が一番のメインに出ていますので、SDGs を3番から2番に上げるということです。</p> <p>ICTは言わなくても、やらなければいけないものです。方法は手段ですので、ベストではなく、ベターなものだと考えていくということで、合わせていければよいと思います。</p> <p>次回は細かい部分まで検討しますが、今回は右側については置いておいて、左側をご議論いただければ、事務局でも進めやすいと思います。基本目標と基本施策の辺りについてご議論いただけるとよいと思います。最も重要な問題ですので、それに①②③④を合わせていただければよいと思います。</p>
委員	<p>「ふるさと」という表現が急に出てきていることに違和感があります。資料3-1の基本理念で「ふるさとを愛し、学びのまち さんだを発展させていくという視点」とあり、「三田には、文化や歴史、豊かな自然、優れた教育環境が整っており」とありますが、「優れた教育環境」とは何でしょうか。</p>
事務局	<p>教育環境としては大学や祥雲館高校等ということで、A3カラー刷りの資料にも載っています。赤い部分に「祥雲館高校、関西学院大学等の恵まれた教育環境」とありますが、これらを意識していると考えております。</p>
委員	<p>こういった学校のみを教育環境とすることもいかがでしょうか。コロナ禍で生き延びていく力のような、適応力のようなところが重要だと感じます。「生き抜いていく力をつける」という1本の柱があってもよいのではないかと思います。そのような柱については記述してありますが、そこがこれから子どもたちが生き抜いていくためには周辺環境レベルの高さも必要ですし、人とのコミュニケーション能力も必要です。すべての大事なことができないと、生き抜いてはいけないのではないかと思います。コロナ禍等のいろいろな災害が考えられる中で、そのような流れも入れていただいてもよいのではないかと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にご意見等はございませんか。</p>

副委員長	<p>質問させていただきます。基本理念と基本目標との関係性を、全体としてどのように理解すればよろしいでしょうか。例えば、「基本理念とは縦糸で、基本目標は横糸」というようなイメージで考えればよいのか、それとも、基本理念というものは、基本目標と一対一対応して、具体的な目標になっていると理解すればよいのか、いかがでしょうか。もしかしたら、理念と目標では主語が異なるのでしょうか。理解の枠組みを少し教えていただけるとありがたいと思います。</p> <p>例えば、理念が土台になっているとか、どのような構造で理解していけばよいのかということをお聞きしたいと思います。理念が基本目標を考える上で、すべてに通底するものと考え読み取ればよいのか、それとも、この理念がこの基本目標に強く反映しているというような対応関係があるのか、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>理念と目標、あるいは基本施策の関係性については、一対一で対応しているということではありません。理念は全体に関わるものであり、どこにおいても、このようなことを大切にしながら進めるということになります。</p>
副委員長	<p>理念と目標は、折り合わさる縦糸と横糸のように理解すればよろしいですか。</p>
事務局	<p>基本理念とは、全体を包み込むようなイメージのもので、すべてに関わる大切なことと理解しています。</p>
副委員長	<p>わかりました。ありがとうございます。</p>
学校関係者	<p>基本理念1、2、3という大切な視点は、基本目標に対応していると考えたほうが、関係性がわかりやすいのではないかと思います。SDGsを1番目に移動すると、大まかに基本目標1、2、3に合ってくると思います。基本目標に大切な視点が対応するように合わせていけるのならば、関係性が理解しやすいと思います。</p>
委員	<p>今、検討できる部分は基本目標のところですね。</p>
事務局	<p>どちらも可能です。</p>
委員	<p>わかりました。</p>
委員長	<p>ご意見として何うということにいたします。</p>
委員	<p>PTAの者ですが、基本理念、基本目標はだれがだれに対して言っている言葉でしょうか。また、PTAとしては、それをどこまで下したらよいのでしょうか。</p> <p>例えば、教育委員会が先生に伝え、先生はこのような理念をもって教えるということなのか、PTA等にも知らせて、「このようなことをしっかりとやっている」と伝える必要があるのでしょうか。もしくは、「自分が好き」「人が好き」というよう</p>

	<p>な部分があるので、子ども自身も知っておかなければいけないことなのでしょうか。</p> <p>事務局 もちろんすべての市民の方に知っていただきたいという思いはありますが、「知っておかなければならない」というようなことでもないと思います。ただ、教職員の皆さんには、基本目標や基本施策があり、このような体系において教育が進められているということをご理解いただきたいと考えております。</p> <p>「だれに対して」ということではありませんが、これから5年間の教育をどのように進めようかと考えたときに、第1期、第2期計画を継承しながら、また、新たな課題に対応していくために、柱を定め、枝葉を定め、計画を定めるという体系的な取組、あるいは目標数値等を定めながら、1つの道しるべとして、5年間の教育を、どのような目標、どのような基本的考え方をもち進めていくのかを、この計画をつくることで、皆さんが同じ理念の下、同じ計画をもち、同じ基本目標をもって教育をしていこうということで、現在、策定に向けてご意見をいただいております。</p> <p>委員 そうであれば、5年間を通じて考えていくということになるとは思います。それは保護者も把握しておくべきことだということでしょうか。</p> <p>事務局 この計画は、現在、令和3年度に向け、皆さんにご協議いただいておりますが、令和4年度にスタートするものです。5年間かけてつくるということではなく、令和4年以降の5年間の教育の道しるべとして、共通理解の下、この計画に基づいて教育を進めていこうというものです。</p> <p>委員 では、令和4年から5年間かけて取り組んでいくので、それまでに浸透させていくということでしょうか。浸透させる者としては、特定の者ではなく、学校、保護者、子どもと考えればよろしいですか。</p> <p>私どもも、PTAの役員会や実行委員会で話をする際に、どこまで、どのように伝えていけばよいのか、疑問を感じます。必要であれば、話をしていきます。</p> <p>なぜ、このようなことを申し上げるかと言えば、以前、Society5.0やGIGAスクール構想についての話が出たときに、私はまったく存じておりませんでした。SDGsについても知りませんでした。このようなことは、どこまで浸透させるべきなのか、わかりません。機会があれば保護者や子どもにも伝えていくべきことなのでしょうか。</p> <p>事務局 現在、PTAや子どもさんに伝えていただくとすれば、今は第2期の教育振興基本計画に基づいていますが、第3期に向けて、このような審議会を開いて、委員の皆さん、市民の皆さんのご意見をお聞きしながら、計画策定に取り組んでいるということをお伝えいただきたいと思います。それで、ご興味をもっていただき、ご意見をいただければ幸いです。</p>
--	--

委員長	<p>大変貴重なご意見をいただいたと思います。振興計画そのものが周知していないということだと大変なことです。ぜひ、周知のしかたも考えていかなければいけないと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>他にご意見等はございませんか。</p>
委員	<p>基本理念のところの2点目の ICT に関する部分ですが、ICT を使うことがめざす子ども像ではなく、社会を生き抜く力を育てることが重要で、それが「めざす子ども像」だと思います。次年度から ICT が始まり、タブレット教育を行うということで、大きく変わるところではありますが、タブレットはツールの1つであり、それが使えるようになることが目標ではなく、それで何を学ぶのか、それで何をするのが重要だと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。ご意見ということでお伺いして、事務局で検討をお願いいたします。他にご意見等はございませんか。</p>
学校関係者	<p>資料3-1の「ICTの活用と社会を生き抜く力を育てる」という文章を読んで、私も同じことを思いました。</p> <p>子どもがこれからの社会を生き抜く力を養い、夢を育て挑戦できるような子どもに育てるための方法は、ICT だけではないと思います。</p> <p>ICT は、今から小中学校で広がっていくものですが、それよりもっと大事なものがあのではないのでしょうか。子どもの心情面や力です。ですから、もし質問をするのであれば、この「等」ということで、ICT の他にどのようなものがあるのか、お聞きしたいと思います。</p>
委員長	<p>ICT の他には何があるかということですが、私は体験だと思いますが、皆さん、いかがですか。</p>
委員	<p>例えば、「確定申告を自分でできるかどうか」ということについて、自分で行ったほうがよいと思います。今では「サラリーマンは起業しなければ、会社の中で処理してくれるので知らなくてもよい」という考え方でしたが、マイナンバーカードがあり、スマホやパソコンがあれば、休暇をとって税務署に出向かなくても済みます。</p> <p>そういう社会生活で生き抜く力という観点から考えると、確定申告が自分でできるかどうかは、ICT とはまったく関係のない話だと思います。自分でできないということだと、大きな機会損失になります。</p> <p>私の姪が正社員になり、マンションを買いました。ローンを組んだら、税金が還付されますが、それを知りませんでした。親も知らず、だれかが教えてくれるわけでもありません。姪は「だれも教えてくれないので損した」と言っています。そのようなことは学校でも教えてくれませんので、自分で見つけていかなければいけません。そのようなことを見つけられる力がサバイバル力だと思います。</p>

	<p>めざす子ども像、めざす人間像とは、自分でさらによいものを探し、見つけることができる子どもであり、そのような子どもを育てることが教育の役割だと思います。</p> <p>もし、教えてくれる人がいなければ、ICTを使う、スマホを使うということも可能です。そこの部分が前後してしまうと、おかしなことになってしまいます。</p> <p>一方で、家にパソコンがなければ、ICTの使い方等をだれかが教えてあげなければ、負のスパイラルに落ち込んでしまうかもしれません。</p> <p>そのような意味では、ICTは学校で教える必要があるということは事実です。そのような具体的なイメージをせずに、理念だけで話をしていくと、糸の切れた凧のようになってしまう危険があると思います。</p> <p>私が教えたので、姪は急いで確定申告をしましたが、そういうことなのだと思います。会社をつくりたいと思ったときに、だれに相談すればよいかと考えても、行政書士、司法書士を頼めばよいと知らないのです、いつまでも小さな会社だということもあると思います。</p> <p>「三田市に住んでいれば、そのようなことをだれかが教えてくれる」「何らかの支援があるまちで、三田市の大人は当にできる」「何らかの知恵を与えてくれるまちだ」と、子どもたちが思えば、将来、自分もそのような大人になろうと思えるのではないのでしょうか。そのようなことが、ICTと生きる力との関係だと思います。</p>
委員長	<p>ご意見ということで、よろしいでしょうか。</p> <p>他にご意見等はございませんか。</p>
学校関係者	<p>基本理念の「めざす子ども像」で、1番に「自分や人を大切にし、誇りをもって生きる子」と書かれています。基本目標でも「生きる力」ということで、「誰一人取り残さないインクルーシブな社会づくりの実現に向けて」と書かれています。基本施策の中でも「豊かな心の育成」とあり、人権問題や共生に関することを記載していただいていることはよいと思います。</p> <p>最後の基本施策の10で「学びが活かせる環境づくりの推進」とありますが、「学びが活かせる環境づくり」とは、どのようなものなのか、よくわかりませんでした。資料3-2の22ページの各種データ等調査結果をみると、「有馬富士自然学習センターの学習プログラム」のことが、「図書館を使った調べる学習コクール」のことが挙がっています。このときの学びというものが、急に小さい学びになったと感じます。先ほど申し上げたことから言えば、この学びの中には、1つ1つのつながりのことを学んできた子どもたちが社会に出たら、社会はそれを活かせる環境であればよいですが、「学校では絵空事だけを学んだだけで、社会では一切、使えない」ということになるのは絶対にいけないと思います。三田市では、指標として共生社会の実現に向けた取組を進めていますので、そのようなことも挙げていただき、学びが社会に出ても活かせるような形で表していただけるとよいと思います。次回以降、そのような意味での学びを考えた施策を展開していただけるとうれしく思います。</p>

事務局	<p>本校の高等部3年生は、この3月にコロナ禍の中で卒業し、社会に出ていきます。その先の社会をどのようなものにしていくかということも計画に書いてありますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>資料の見方をもう少し説明させていただきます。先ほどご指摘のあった、基本施策10は、第3期の計画案としてお示ししています。</p> <p>また、ご指摘の資料3-2、22ページについては、第2期の計画のふり返りということで、その成果と課題を挙げ、一番右側に、第3期に向けた課題を挙げています。それを次の計画に活かしていこうという基礎資料になっております。ですから、ここに挙がっているものは、あくまでも基礎資料であり、第3期の計画に表記するものではありません。</p> <p>また、10番の「学びが活かせる環境づくりの推進」は、あくまでも生涯学習ということで、「そのような社会をつくっていくことをめざそう」というキーワードです。子どもが大人になって、何歳になっても学習し続けることの成果を、社会づくりに活かしてもらおうという意味合いです。今後、具体的に施策の方向性や事業の内容に、それが反映されるような形で、最終的な計画をつくっていきたいと考えておりますので、ご理解ください。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。いかがですか。</p> <p>他にご意見等はございませんか。</p>
委員	<p>質問いたします。生涯学習に関して、「学び直しをしたい」と思ったときに、放送大学等も1つの手段だと思いますが、三田市において大人がPC等の操作方法をだれかに教えてほしいと思ったときに、学ぶ場があるとよいと思いますが、そのような場はあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>市では生涯学習カレッジという形で学びの場をご準備させていただいています。ただ、生涯学習カレッジは歴史的には高齢者大学の延長線にあり、約55歳までに入学年代を拡大させていただいたものですので、ご指摘いただいた、シニア以外の若い世代の方の学びの場をどのようにご用意していくかということについては、私どもも1つの課題だと考えております。</p>
委員長	<p>いかがでしょうか</p> <p>他にご意見等はございませんか。</p>
委員	<p>基本目標の1、2、3については、その順番は重要なのでしょうか。</p>
事務局	<p>説明が漏れており、申し訳ございません。配布させていただいた資料では、4ページの3-3の説明として、基本目標1「持続可能な社会の創り手となる子どもの育成に取り組みます」の説明として、変化の激しい社会の中で特に注力したい点と</p>

	<p>ということになります。基本目標の順番は優先順位ではないですが、特に1に重きを置いて注力したいという思いをもっています。</p> <p>基本目標2については、「知徳体」の部分となります。</p> <p>基本目標3については、第2期計画の2と3を一体化させた目標として、今までは学校と地域で分かれて考えていた部分もありましたが、今回は学校、地域、家庭を分けて考えるのではなく、一緒になり子どもの学びを支えていくための目標とするということです。</p> <p>優劣をつけるのではありませんが、より注力したいというところを1に挙げている形になります。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>子どもの教育の取組に関して、計画案をみたときに、子どもの力というものが書かれていました。心と体については、第1回目のアンケートの中でも、「三田市の子どもたちに、どのような子どもになってほしいと思いますか」という設問で、「健康な子ども」という回答も高い割合を占めていたと思います。コロナ禍の中で、昨年、久しぶりに登校した子どもたちが一番楽しかったことは「給食」だということです。この場には三田市の学校給食課長もおられると思いますが、三田市の給食の素材の質や内容に関しては、親としては基本になるものだと考えており、勉強よりも大事にしてほしいという思いがあります。健康な体と精神があれば、子どもはどのような時代でも、どのようなことが起きても、生き抜いていくことができます。すべてそこから始まるのだと思います。先ほども、基本目標に大切さの順番についての説明をお聞きしましたが、大人からみた観点と保護者からみた観点、子どもが本当に望んでいることが、若干ずれているのではないかと懸念します。親としては、子どもが一番楽しみにしているところを大事にしてほしいと思います。</p> <p>先ほど、タイムマネジメントについての話がありましたが、目標や時間の使い方が重要で、これらが元気な精神と体をもてるということで、早い段階から自分の夢や目的をはっきりともてれば、どのような時代でも子どもはぶれることなく、楽しく生きていける力をもつのだと思います。大人になっても、学力が高くても道を外れる方はおられますが、健全な心身がないためにそのようになれば大変残念なことだと思います。少しでも早い段階で、本当に大切な部分を見直すということで、給食に力を入れていただきたいと思います。</p>
委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>子どもの教育の取組に関して、計画案をみたときに、子どもの力というものが書かれていました。心と体については、第1回目のアンケートの中でも、「三田市の子どもたちに、どのような子どもになってほしいと思いますか」という設問で、「健康な子ども」という回答も高い割合を占めていたと思います。コロナ禍の中で、昨年、久しぶりに登校した子どもたちが一番楽しかったことは「給食」だということです。この場には三田市の学校給食課長もおられると思いますが、三田市の給食の素材の質や内容に関しては、親としては基本になるものだと考えており、勉強よりも大事にしてほしいという思いがあります。健康な体と精神があれば、子どもはどのような時代でも、どのようなことが起きても、生き抜いていくことができます。すべてそこから始まるのだと思います。先ほども、基本目標に大切さの順番についての説明をお聞きしましたが、大人からみた観点と保護者からみた観点、子どもが本当に望んでいることが、若干ずれているのではないかと懸念します。親としては、子どもが一番楽しみにしているところを大事にしてほしいと思います。</p> <p>先ほど、タイムマネジメントについての話がありましたが、目標や時間の使い方が重要で、これらが元気な精神と体をもてるということで、早い段階から自分の夢や目的をはっきりともてれば、どのような時代でも子どもはぶれることなく、楽しく生きていける力をもつのだと思います。大人になっても、学力が高くても道を外れる方はおられますが、健全な心身がないためにそのようになれば大変残念なことだと思います。少しでも早い段階で、本当に大切な部分を見直すということで、給食に力を入れていただきたいと思います。</p>
委員	<p>コロナ禍で個食を実施しており、全員が前を向き、話もせずに食べている姿をみました。食べることが何よりの楽しみだと思いますので、給食に力を入れていただきたいと思います。</p> <p>時間も迫ってまいりましたが、ぜひご意見があればお願いいたします。</p> <p>先ほどのご意見は、資料3-4の「計画の体系」でいえば、基本目標1と基本目標2を入れ替えたかどうかということですか。</p>

委員	<p>一番の課題は健康だと思います。ですから、まず健康なしでは、どのようにしていても悪い方向へ向かってしまう。体によいものは、脳の発達にもよい作用をすると思いますので、変わっていくと思います。勉強ができて、すぐに集中力が切れたり、イライラしたりする子どもが多いようです。家庭環境や、食事の準備をしてもらえずに買い食いすることも影響すると思います。給食の質が重要だと思います。三田市は特に地域のもっている力を活かすということですし、多くの農家がある土地柄で、おいしい野菜が採れていますので、給食費が高くなってもよいものを食べさせていただければありがたいと考えています。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。基本目標の「生きる力を」ということは、この計画の中で一番、重要なポイント、一番分厚い部分だと考えております。</p> <p>基本目標1というものは、その前提条件として、大きく時代が変わろうとしているということがあり、まずは「社会の変化に対応していかなければならない」というポイントを抑えています。</p> <p>その次に、「生きる力」という本流を載せています。</p> <p>そして、3点目に、「子どもを育てることは学校だけでなく、親だけでもなく、地域も一緒に取り組んでいかなければならない」ということで、「家庭・地域共に育てる」という視点をここに挙げています。この計画自体が、学校の協議だけではできないものではなく、親だけで子育てをできるものでもないということで、すべての子どもに関わる市民の皆さんに読んでいただきたいと考え、順番に説明する流れで計画をつくっております。今後も、具体的に皆さんからご意見をいただきながら、仕上げていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。時間になりましたので、以上で本日の審議を終了します。本日の議論の内容を確認します。大きなこととしては、資料3-1の骨子案の理念、計画の体系の基本目標について議論ができました。本日は、枝葉の部分というよりも幹の部分の大きな部分の議論が深くできたと思います。多くのご意見をいただき、教育の本質的な部分が語られていると感じました。ぜひ、事務局のほうで、本日の議論をまとめていただき、次回までに整理していただきたいと思います。</p> <p>3月には東日本大震災、オウム真理教の事件がありました。また、本日は東京大空襲のあった日です。教育が何のためにあったのかと強く考えたことを思い出します。どれほど優秀であっても、その知識を善に用いるか、悪に用いるかで、人のところがみえます。WHOという健康は、身体的であり、精神的であり、社会的なものを含めた健康です。</p> <p>本日は、学校教育に関わらず家庭等でも、教育に関わるということが議論できたと思いますが、何よりも「学び続ける人を育てる」ということで、現在のキーワードは「探究」ということだと思います。社会に出ても学び続けられる人が三田の人であってほしいということです。点ではなく、線上でずっと学び続けることができるということが重要であり、亡くなるまで学び続けることが必要だと思います。</p> <p>南海トラフは、100年おきにきているということで、前は93年で、100年は</p>

	<p>身近だといわれています。目の前の子どもたちは南海トラフに遭う確率が非常に高い世代です。そのように考えると、三田においても防災は外せないことであり、新型コロナウイルス感染症同様に、外せないファクターだと思います。</p> <p>時代は次々に変わり、いろいろな言葉が出てきますが、本日の議論で普遍的なものも重要だと思いました。コミュニケーションや人とのつながりという基礎的、基本的な部分、普遍的な部分新しいものに対応していかなければいけない部分があると思います。両面ということで、今回は垂直次元と水平次元という2つの言葉を出しましたが、そのような点では、基礎の部分と基本の部分という2つの部分から、多角的にみていくことが必要だと感じました。</p> <p>次回の会議では、本日ご議論いただきました内容を計画素案として、計画の体系の基本施策について議論を行っていきたいと思います。</p> <p>議事が終了しましたので、進行を事務局にお返しします。</p> <p>4 次回予定</p> <p>委員長、ありがとうございました。委員の皆様も長時間に渡るご審議ありがとうございました。</p> <p>(次回日程について説明 5月6日 19:00 から開催予定)</p> <p>5 閉会</p> <p>閉会にあたり、鹿嶽教育長からごあいさつを申し上げます。</p> <p>(あいさつ)</p> <p>以上で第2回三田市教育振興基本計画検討委員会を閉会させていただきます。ありがとうございました。</p> <p>— 閉会 —</p>
事務局(司会)	
事務局(司会)	
教育長	
事務局(司会)	